

2021年2月25日

各 位

会社名 株式会社 キャンバス  
代表者名 代表取締役社長 河邊 拓己  
(コード番号：4575 東証マザーズ)  
問合せ先 取締役最高財務責任者 加登住 眞  
IR@canbas.co.jp

### 東京大学との共同研究契約内容拡大のお知らせ

株式会社キャンバスと国立大学法人東京大学医学部附属病院は、当社が創出し開発中の抗癌剤候補化合物CBP501の膵臓癌発症モデルマウスによる薬効試験について、2016年3月から共同研究契約を実施しています。今般、当該共同研究の内容を拡大する合意が成立し、改めて共同研究契約（2021年2月24日効力発生）を締結しましたので、お知らせします。

#### 【研究目的の拡大】

(拡大前)

CBP501を含むキャンバスの研究開発に関連する医薬品・医薬品候補化合物及びそれらの併用による膵臓癌への薬効・安全性等を、膵臓癌発症モデルマウスを用いて確認する。

(変更後)

- ・東京大学医学部附属病院が提案または提供する医薬品・医薬品候補化合物
  - ・CBP501を含むキャンバスの研究開発に関連する医薬品・医薬品候補化合物
- それら単剤および併用による膵臓癌への薬効・安全性等を、膵臓癌発症モデルマウスを用いて確認する。

なお、共同研究契約の期間（2022年3月31日まで）については、今回は変更ありません。

#### 【研究目的拡大の背景】

CBP501、CBP-A08など当社が開発中の抗癌剤候補化合物は、癌微小環境に作用することがわかっており、従来は難治性癌で最新の免疫チェックポイント抗体も効果が期待できないとされている膵臓癌でも、他の治療との併用によって薬効を発揮する可能性があります。

この共同研究では、東京大学医学部附属病院伊地知秀明講師が作製したヒト膵臓癌に近い膵臓癌発症モデルマウスを当社の研究開発にかかる実験に活用し、当社が開発中のものを含むさまざまな医薬品や医薬品候補化合物を用いて、膵臓癌への薬効・安全性等を確認し、薬効が見られた場合には、組織染色などの手法を用いて当該薬効が発揮されるメカニズムを解析してきました。

過去約5年間の共同研究においては、主に「本モデルマウスが確かにヒト膵臓癌発症と非常に類似していること」「CBP501が白金製剤・免疫チェックポイント阻害抗体との併用によって効果を示すこと」「医薬品候補化合物のふるい落としやCBP501の併用候補化合物の選別に有用であること」の3点が確認できました。

従来共同研究は、CBP501・CBP-A08を含むキャンバスの研究開発に関連する医薬品候補化合物を対象としてきました。

今回の共同研究目的拡大により、新たに「東京大学医学部附属病院が提案または提供する開発候補化合物」（作用メカニズムは非開示ですが、従来キャンバスが研究または開発してきた候補化合物の作用機序とは異なる

ります) が加わり、これらの単剤投与や、CBP501・CBP-A08を含むキャンバスの研究開発に関連する候補化合物との併用投与についても、薬効・安全性等を確認し薬効メカニズムを解析することとなります。

既に複数の医薬品候補化合物が東京大学医学部附属病院から提案されており、今回の共同研究目的拡大により、当社の開発ポートフォリオ拡充に直結する可能性のある研究が追加されることが期待されます。また、CBP501とは作用メカニズムの異なる候補化合物を基礎研究の素材とできることから、新たな併用戦略が描ける可能性もあります。

なお本件は、2021年6月期業績など短期的な当社の業績に直接の影響はありませんが、中長期的には、臨床第2相試験準備中のCBP501、臨床第1相試験中のCBS9106、前臨床試験準備段階にあるCBP-A08や「NEXT」プロジェクトに続く研究資産の拡充につながり、中長期的な収益や企業価値向上に寄与する可能性があると考えています。

### 【株式会社キャンバスについて】

キャンバスは、癌免疫に特化して新規抗癌剤の創出を目指す、臨床開発段階の研究開発型創薬企業です。

創業期から研究開発を続け現在最も開発ステージの進んでいる自社創出化合物CBP501は、「CD8T細胞の存在しない（または極めて少ない）免疫コールドな癌組織にCD8T細胞を誘引して免疫ホットにし、免疫チェックポイント阻害抗体の効果を高める」というユニークな作用機序を持つImmune Igniter（免疫着火剤）であり、これまで多数の臨床試験で十分な安全性が確認された上、直近では膵臓癌3次治療を対象とした米国での臨床第1b相試験で有効性を示す有望な結果が得られました。現在は臨床第2相試験を準備中です。

後続の化合物CBS9106は、自社の探索システムから創出し自社で前臨床試験を完了した段階で2014年に米国Stemline社へ導出しました。臨床第1相試験で有望な安全性と有効性が示されており、次相臨床試験が検討されています。

これらのほかキャンバスは、前臨床試験段階の抗癌剤候補化合物CBP-A08、低分子の免疫系抗癌剤であるIDO/TDO二重阻害剤、新しいコンセプトの免疫系抗癌剤の探索創出段階にある「NEXT」プロジェクト、免疫系抗癌剤の感受性予測システムなど、癌免疫領域に集中した基礎研究に基づく中長期的な研究開発ポートフォリオを有しています。また、IDO/TDO二重阻害剤については、同じ作用メカニズムでサイトカインストームの抑制にも効果が期待できることから、静岡県立大学と共同で新型コロナウイルス感染症（COVID-19）治療薬としても研究を進めています。

以上